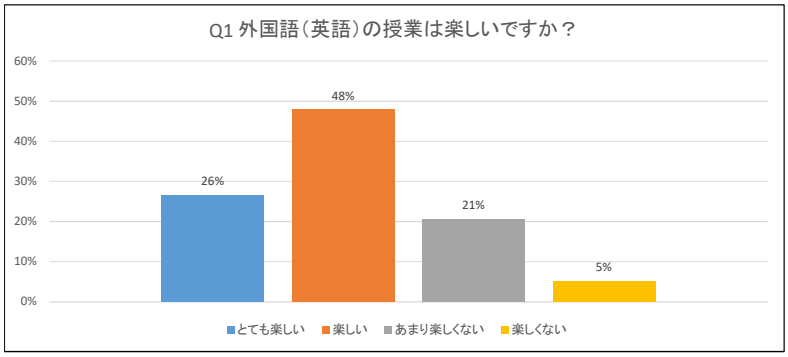
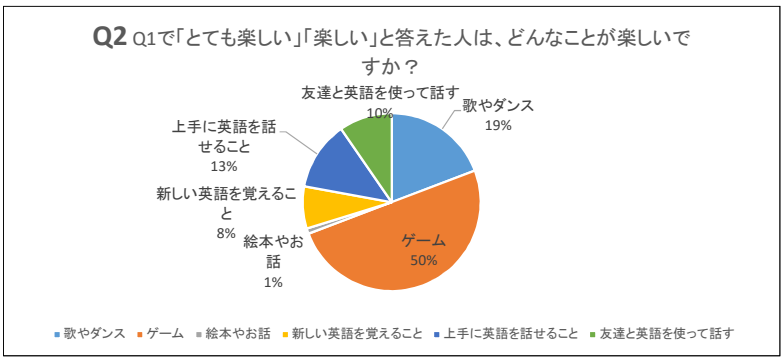
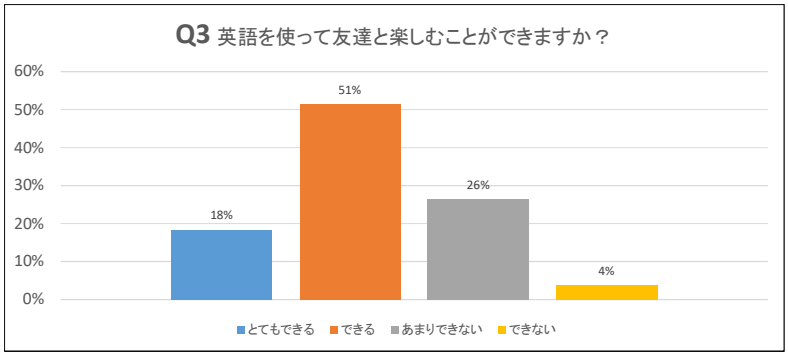
令和6年度外国語（英語）の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察（小川小）



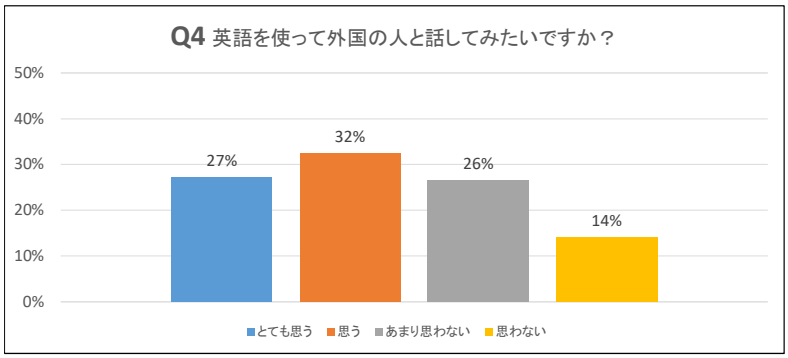
【Q1について】
70%以上の児童が、外国語（英語）を楽しいと回答している。26%の児童が楽しくない・あまり楽しくないと回答しているので、必要感のある場面設定や外国語（英語）を使ったコミュニケーションの楽しさを実感できる活動などを設定していく必要がある。



【Q2について】
昨年度と比較すると、「歌やダンス」「ゲーム」の活動が楽しいと回答した児童が減少している。その反面、「新しい英語を覚えること」「上手に英語を話せること」を楽しいと感じている児童が21%おり、昨年度よりも大きく増加している。今後も、外国語（英語）によるコミュニケーションを楽しいと感じることができるような活動の工夫を継続していくことが必要である。



【Q3について】
英語を使って楽しむことが「とてもできる」「できる」と感じている児童が69%いるが、昨年度よりも少し減少している。30%の児童が「あまりできない」「できない」と感じている。Q1と同様に、外国語（英語）を用いた活動において自信を持てなかったり、十分な達成感を味わえていなかったりすることが考えられ、児童一人一人が、充実感や達成感を得られる経験が必要である。一人一人が自信を持ち、安心して英語を使い、楽しく活動できるような活動の工夫を図っていく。



【Q4について】
英語を使って外国の人と話してみたいと感じている児童は59%いるが、そうは思わない児童が増加している。今後も、ALTとの連携を図り、英語を使うよさや必要性、コミュニケーションの楽しさや達成感を感じられるような活動や単元デザインの工夫に取り組んでいく。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】
〇楽しんで英語を使う活動を継続していくことで、子供たちの英語への不安、苦手意識は軽減されるのではないか。
〇社会科や総合的な学習の時間などとも関連させることで、国際理解教育の充実につながり、子供たちの視野や世界観がより広がり、英語への興味、感心が高まるのではないか。

【考察・今後の展望等】
学んだ英語を使ってコミュニケーションを図ったり、発表したりする活動を通し、達成感や満足感を味わうことができる機会を計画的に設定していく必要がある。英語専科とALT、担任が連携し、児童が「話してよかった」「もっと話したい」「聞きたい」「知りたい」という思いを持ってコミュニケーションを図ろうとするような単元デザイン、授業づくりを目指していく。